



プロのイチオシ温泉 Vol.7

垂玉温泉・地獄温泉

震災からの復旧がすすむ南阿蘇の秘湯

後藤 康彰

日本健康開発財団 温泉医科学研究所首席研究員

【ごとう やすあき】加齢を制御する生活行動として「日本の入浴・温泉」に着目。「温泉地滞在が心身に与える影響」等の研究を実施している。温泉と食べることに目がなく、年間 50 箇所ほどの湯をめぐる。



地獄温泉にある清風荘の「すずめの湯」

極私的オススを2つ

「オススの温泉はどこですか?」という質問を受けることが少なからずあります。好みの泉質や秘湯派、温泉街散策派など温泉に求めるものは人それぞれ。もちろんその時の気分によっても選ぶ温泉は違うでしょうから、どなたにも満足いただける回答があるわけではありません。

ですが、つついなんども通ってしまう場所…というのもあったりはします。

僕の場合、頻度が多い温泉の一つは、熊本県南阿蘇にある「垂玉温泉」「地獄温泉」です。どちらも熊本震災とその後の集中豪雨で大きな被害を受け、現在は休館を余儀なくされていますが、お湯、かもし出される雰囲気ともに極上です。

タイプの異なる隣接した秘湯

「垂玉温泉」にはじめてお邪魔したのは15年前、妻に「とっておきの温泉にいこう」と誘われたのがきっかけです。いざ訪れた山口旅館さんにヤラれました。絶妙にふわふわ漂う湯の花、ほのかにかおる硫化水素に悩殺されるひのき造りの内湯。象徴ともいえる52℃の源泉が湧きだす「滝の湯」とどめを刺されてしまい、それ以来通うこといくたびか。

山あいにたたずむ一軒家ですが、新緑、紅葉、雪景色と四季を通じてひかえめながら色鮮やかな(矛盾?)印象が強く、ひっそりとした静けさに響く蛙かわずの声に心地よさを覚えます。

与謝野鉄幹、北原白秋らも訪れた同館の創業は明治19年。当時鉄幹35歳、白秋23歳。…ここの良さをわかるなんて若造のわりにやるなあ鉄幹、白秋(笑)。積み重ねられ

た年月の間、大切に守られてきたことがひと目でわかる…そんな温泉です。

垂玉温泉からほんの少し登ったところにあるのが「地獄温泉」清風荘です。単純硫黄泉ですが、江戸時代から200年以上湯治客でにぎわうこちらの名物は「すずめの湯」。湯船の底から白濁したお湯の沸く、男女混浴の露天風呂です。底にたまる泥は意外にさらりとしていて、塗ると美肌に良いのだとか。



地元で毎日通う常連客は、親切にお風呂の入り方を手ほどきしてくれますし、数か月滞在する湯治客も少なく、丁寧に磨かれた湯治棟の床も、歩くときしむ音がいとおしく思えてしまいます。地獄ならぬ天国気分を味わえることうけあいです。

草千里など独特の景観を楽しむことができる阿蘇パノラマラインや登山道の一部も9月に開通(予定)するなど、震災後の復興は着実に進んでいます。両温泉の再開にはいましばらく時間がかかると聞き及びますが、必ずや復旧し、遠くない将来ふたたび訪れる機会がくることを心より祈念しています。

垂玉温泉にある山口旅館の「滝の湯」

